

10. 排泄尿中  $^{57}\text{Co}$ -ブレオマイシンの処理法

鳥住 和民    三島 隆生  
前田 真行    藤野 保定

(和歌山県立医大・放)

桜井 武雄

(同・胸外)

尿中より  $^{57}\text{Co}$ -ブレオマイシン(以下  $^{57}\text{Co}$ -BLM と略)を回収する方法を種々検討し良好な結果を得たので報告する。

1. 煮沸法：尿を濾紙とともに煮沸し水分のみ蒸発させ、濾紙に  $^{57}\text{Co}$ -BLM を吹着させる方法であり、空気中への RI の飛散もなく、濾紙への回収率は96%以上であった。
2. 活性炭法：使用した活性炭は粉末活性炭“白鷺A”であり、尿中の  $^{57}\text{Co}$ -BLM を活性炭により吹着回収させるもので、分離手段として遠沈法、カラム法、静置法を検討した、3方法ともに、尿 1.5l 中の  $^{57}\text{Co}$ -BLM は活性炭 4～5g で約 95% 回収され差を認めない。ただし、3日以上放置した尿は変性を起こし、活性炭の吹着力を低下させるため回収率は低下した。

〔結論〕我々は患者の尿を24時間採集管理し、排尿後2日以内の尿は簡便な静置法で処理し、3日以上放置した尿は煮沸法により、尿中  $^{57}\text{Co}$ -BLM の回収率約95%を得ている。なお、尿の変性、活性炭の種類による回収率の変化、などの問題については検討中である。

11.  $\text{T}_4$  RIA-Kit の使用経験

宮崎 忠芳    岡本 邦雄  
(京都府立医大・臨床検査部)

越智 幸男    吉村 学    貝増 勲彦

間嶋 崇哉    高橋 伯夫

(同・2内)

従来血中サイロキシン量は Competitive Protein Binding Analysis 法により測定されてきてい

るが、今回 DAINABOT 社製の  $\text{T}_4$  RIA kit を使用する機会を得たので報告する。この kit の特徴は incubation 時間が1時間と短い事、B/F の分離にレジンスポンジを使用する事である。この kit に及ぼす温度と incubation 時間の影響について検討したが温度が上昇する程また時間が延びる程 Bound% は上昇するが  $0^\circ\text{C}$ 、60分が適当であった。再現性は kit 間また同一 kit でも良好であった。正常人および各種甲状腺疾患の  $\text{T}_4$  値は、正常人では 4.7～13.9 に分布し、甲状腺機能亢進症では 13.0～24.8、低下症では 5.4以下0.7に分布した。TBG defficiency では正常値からやや正常以下、妊婦はすべて正常範囲であった。テトラソルブ値と  $\text{T}_4$  RIA 値との相関は  $r=0.89$  と良い相関を示したが、 $\text{T}_4$  値  $20\mu\text{g}/100\text{ml}$  以上では相関は余り良好ではない。トリオソルブと  $\text{T}_4$  RIA 値の相関は  $r=0.88$  と良好な相関を示し、また  $\text{T}_3$  RIA 値と  $\text{T}_4$  RIA 値との相関も  $r=0.75$  と良い相関を示した。

〔結語〕

1) Incubation 温度は  $0^\circ\text{C}$ 、時間は1時間が適当である。

2) 再現性は良好である。

3) 従来の CPBA 法と非常によく相関し、また  $\text{T}_3$ -RSU、 $\text{T}_3$ RIA とともに良く相関する。この  $\text{T}_4$  RIA kit は使用する血清も少なく、抽出操作のわずらわしさもなく、Incubation 時間も短かく、CPBA 法にとってかわる簡便な血中サイロキシン測定法と考える。

12.  $\text{T}_3$  イムノアッセイ キット (科研化学) の基礎的ならびに臨床的検討

小西 淳二    中島 言子    森田 陸司  
(京大・中放)

遠藤 啓吾    池窪 勝治    鳥塚 莞爾

(同・放)

科研化学社より提供された新しい RIA 法  $\text{T}_3$  測定用キット “ $\text{T}_3$  イムノアッセイキット” につい